

コミュニティ・スクール情報

2022. 8. 1

第2回 横山っ子ネットワーク協議会 会議録

月日：令和4年7月22日（金）
時間：10：00～12：30
場所：横山小学校 集会室

- 授業参観 10：00～10：30
 - 1年生 生活 一学期のふり返りをしよう
 - 2年生 図工 たのしかったよ どきどきしたよ
 - 3年生 音楽 リコーダーのひびき
 - 4年生 算数 割り算の筆算
 - 5年生 体育 プール
 - 6年生 体育 プール



○ 校長先生からの近況報告

- ・感染症対策をとりながらの教育課程を編成してきた。
- ・10月には学校の公開研究会を開く予定でいる。
- ・ミニ運動会は雨天で中止となったが、練習ではいきいきと活動する様子がみられた。
- ・演劇教室も感染対策を行い、実施した。
- ・授業参観では、少しでも広い場所で授業を行うことを考え、ランチルームを活用した。
- ・水泳学習に横川の佐藤さん（スパル指導員）を招聘して実施した。
- ・親子読書（1年～3年）では、プロジェクターを使い、絵本をスクリーンに拡大して映すことで、密にならないよう工夫して実施した。
- ・なかよしデー（年3回）では、高学年が下級生の面倒をみながら行った。
- ・みんなボラ（みんなでボランティア）では、学校脇の側溝掃除や窓レールなど、普段しないところの掃除を行った。愛校心も育まれた。
- ・スピーチ集会（1. 2年生）では、クイズ形式を取り入れるなど工夫した発表ができた。その場で感想も発表できた。
- ・不審者対応講習を行い、安全への意識を高めた。
- ・4年生の海の体験学習では、カヌー体験を通して、仲間と協力すること、相手を思いやることの大切さを学んだ。
- ・5年生の自然教室では、炊飯体験が実施でき、ロングウォーク（17.5Km）も実施した。
- ・6年生の修学旅行では、南三陸町で災害復興の様子を確認し、義援金を手渡した。
- ・学校の課題としては3つある。1つ目が150周年事業、2つ目が相撲大会（今年度は中止し、9月に横綱土俵入り）、3つ目は収穫感謝祭についてである。今後どう進めていくか、地域の方にも意見を聞きながら検討していく。

(委員からの質問・意見)

- ・感染対策をこまめにとって生活していただいている事に感謝。
- ・行事等の掲示板（掲示物）や教室掲示の工夫に感心した。
- ・コロナ禍での学校運営にきめ細やかな対応を感じる。感謝したい。
- ・子ども一人ひとりに寄り添った対応が子どもの笑顔にあらわれている。
- ・特別支援学級が増加していることに驚いている。先生方の対応も大変と感じる。

⇒インクルーシブ導入以来、様々な工夫をしながら対応してきている。特別支援学級支援員の配置についてや保護者の理解も広まりつつある。

・子どもたちのなかに、特別支援学級の児童に対する見方や接し方はどうか。

⇒子どもたちの成長もあり、子ども同士の距離も小さくなってきている。

・授業参観をして感じたことが「時代の変化、教育の変化」についてである。少人数学級や T・T 指導など 1 つの学級に複数指導員の導入を見て特に感じた。

・先生との距離間が縮まっている。

・学校の課題としている相撲大会についてだが、まわしの付け方などは地域に協力を求めた方がよい。

・相撲後援会が同窓会のなかに組み込まれている今、地域が協力することはやぶさかでない。

・泥だらけになっての田植えなど、体験させたいという声と機械化が進む中、なぜわざわざ体験させなければならないのかという保護者の考えも取り入れながら、この事業の意義を保護者に伝えて行くことも大事。

○ 子どものスポーツ・文化活動の素地をどう育てるか。

・学校の教育課程で実施しているクラブにはどんなものがあるのか。

⇒年間 8 時間実施している。生活を豊かにするためのねらいで 4 年生から 6 年生が行っている。

伝承（神楽等）スポーツ（ポートボール等）イラスト・ハンドメイド IT サイエンス
英語に触れる 将棋など。

・幼い頃から、様々な体験機会を与えることに取り組んでいる地域を情報紙で知った。このようなことが大切であり、三川でもできたらよいと感じた。

・子どもにどのように関心を持たせてきたかという点、親もスポーツをやってきたことから、保育園の頃からためしにやらせてきた。親同士のつながり、友だち同士のつながりで選択することが多いようだ。

・親の立場で、兄弟ともに同じ事を望んだ（送り迎えの関係）が、子どもの志向は異なった。

・スポーツ少年団活動が、勝つことを優先していくことには疑問をもつ。子どもの興味関心を広げることを優先してほしいと願う。

・子どもに多くの選択機会を与えてあげたい。

